

外部評価の観点
 A：目標を達成した。 C：目標を未達成である。
 B：目標をほぼ達成した。 D：目標にかけ離れている。

番号	重点目標	評価指標	実績	自己評価	主な活動成果	次年度に向けて(校長)	外部評価
1	多角的な学生募集活動の推進による入学者の増加(教務課、養成部、研修部)	◎令和6年度入学試験合格者数 40名 【R3実績：42名(A)、R4実績：34名(B)】	39名	A	・農業系高校との関係強化(連携会議、高校訪問、オープンキャンパス、体験カレッジ、職員向けオープンキャンパス、職員間の交流促進)、1・2年生を対象とした学校訪問、体験研修の受入れを実施した。 ・推薦入試における受験資格の見直し(農業技術検定3級取得)等を行い、該当する1名が受験し合格した。	・高校1・2年生を対象に説明等を行うことで、徐々に認知度が高まっている。また、個室対応など新寮の効果も見られたことから、引き続き、本校での学校訪問、体験研修など高校との連携強化を図る。 ・また、生徒と直接接する農業系高校の教員や実習助手などの、専門分野での交流拡大に努める。	B
		◎農大訪問者やオープンキャンパス等参加者へのアンケートによるホームページの認知度確認70%以上 【R5から目標設定】	37%	D	・今年度初めて来訪者へのアンケートを実施し、ホームページ(HP)の認知度は37%と低位であった。 ・HPの更新回数は211回となり、目標の190回を上回った。また、HPのアクセス状況を分析したところ、今年度から取り組んだプロジェクト研究紹介の検索件数が多いことが分かった。	・アンケート調査、ホームページの利用状況分析から、関心の高い時期や内容が明らかになった。 ・今後はトピックに学生のプロジェクト内容を掲載し、プロジェクトをまとめたページを作成したり、検索エンジンでヒットしやすいワードをプログラムに組み込むなど改善を図る。	
		○マスコミ等を通じたPR回数 20回 【R3実績：20回(B)、R4実績：16回(C)】	24回	A	・今年度は新たに、スマート畜産研修会や能登半島地震チャリティ販売会での取材を受け、目標を達成することができた。	・引き続き、行事等の情報発信に努めるとともに、学生のプロジェクト内容などにも焦点をあてた発信を検討する。	
2	実践教育による、社会に役立つ人材の育成(養成部)	◎日本農業技術検定2級合格者(割合%) 2年生取得者30%以上(12名) ※取得済(4名)+新規取得全国平均(R4:21%)以上(8名) 【R3実績：31%(C)、R4実績：28%(C)】	16%(6名)	D	・2年生に対しては、過去問を中心に小テストを実施しながら、実習中にも栽培品目の具体的な説明を行うなどにより知識習得を促したが2級合格者は6名にどどまった。 ・1年生に対しては、7月試験において3級未取得者の受験を促し8名が合格し、その内3名は12月試験で2級に合格するなど着実にレベルアップが図られており、また、1年生の2級取得者4名が1級に挑戦するなど意欲的な取組につながった。	・就農予定者の受験意欲が低いことから、年2回の試験のうち、モチベーションが比較的高い7月での合格率向上を目標に、年度の早い時期から受験対策を行う。 ・また、1年生では意識が高い就職希望者を中心に、お互いに競い合う姿もみられたことから、競争意識も醸成しながら、1級合格も見据えた指導を行う。	B
		○日本農業技術検定2級全国平均点以上達成者(割合%) 1年生全国平均点以上の学生数30%以上 【R3実績：21%(D)、R4実績：18%(D)】	42%(11名)	A			
		○プロジェクト学習の内容充実 一定水準(70点)以上の発表80%以上 【R3実績：100%(A)、R4実績：76%(B)】	95%	A	・中間発表会での指導に加え、新たな試みとして九州地区予選会において農技センター研究員等から直接助言指導を受けることで、内容の充実につながったと感想。	・テーマ設定にあたり、自営就農予定者は家業の課題を、また就職予定者は就職先の品目等を想定した課題を設定することで、より実践的なプロジェクト学習を促していく。	
	○農家等派遣研修の評価(35点以上の割合%) 受入農家からの一定水準以上の評価 1年生：70%以上 【R3実績：66%(A)、R4実績：73%(A)】 2年生：80%以上 【R3実績：72%(C)、R4実績：66%(D)】	1年生 90% 2年生 68%	A C	・1年生は、非農家出身者が約半数で、初めての農家研修で緊張がみられたが、学ぶ意識が高く、受け入れ農家からの評価も高かったと考える。 ・2年生においては、作業面では高い評価をいただいたが、一部の学生においてコミュニケーション不足や目的意識が低く積極性に課題が見られた。	・日頃の実習での声掛けや販売の機会を活用し、会話や質問等コミュニケーション能力向上に向けた指導を行なう。 ・また、早期に進路や就農後の経営目標を明確にし、研修先で学びたいことを具体的に考えさせるように指導していくとともに、進路(就農・就職)に応じた研修先とのマッチング、事前のインターンシップの実施など、目的意識の向上を図る。		
3	就農に向けた進路指導の強化(教務課、養成部)	◎就農予定者及び農業技術者 90%以上(34名) 【R3実績：94%(A)、R4実績：93%(A)】	97%(36名)	S	・卒業予定者の進路は、即就農14名、兼業就農7名、雇用就農7名、農業関係就職8名、その他就職1名。 ・就農予定者に対しては、家庭訪問や各地域就農支援センター(振興局)と保護者との面談、就農計画策定支援を行った。 ・就職希望者に対しては、JA等及び農業法人説明会を開催するとともに、農業法人等にインターンシップを働きかけ延べ22名が参加しマッチングにつながった。	・早期の進路指導を指導してきたが、なかなか就職先を決め切れない学生が見られたことから、インターンシップの促進、農家等派遣研修の研修先としてマッチングできそうな農業法人等への受入、保護者との面談などの働きかけを行う。	A
		○学生のインターンシップ人数 20名以上 【R3実績：26名(S)、R4実績：21名(A)】	22名	S			
4	安全意識を持った農業機械利用者の養成とながさき農業オープンアカデミー開講(研修部)	○農作業安全研修会 開催回数 40回以上 【R3実績：44回(A)、R4実績：44回(S)】	39回	C	・農作業安全研修は、トラクター(大特)及びけん引操作研修については、計画通り延べ29回、306人が受講したが、各地域での研修会において、計画していた研修会うちの1回が主催者の都合により中止となったため、目標を達成することができなかった。	・トラクター(大特)及びけん引操作研修については、R元年4月の道路交通法改正により大特免許の取得のための受講者が多い状態が続いていたが、ほぼピークを過ぎたことから、回数及び1回あたりの受講者数の見直しを行い、研修の充実を図る。 ・引き続き、農作業事故低減のため、各地域での研修会を計画的に開催し、啓発に努める。	A
		◎オープンアカデミーの内容充実 アンケートで満足と回答80%以上 【R3実績：87%(B)、R4実績：80%(B)】	92%	A	・7~11月、5回19講座を開催。最終的に14名が自身の経営計画を作成、発表まで行った。 ・経営理念の大切さ、経営分析、戦略立案、経営計画作成までを体系的に受講するとともに、外部講師として3名の実践者を招き、経営視点、マーケティング、仲間づくりなど、自身の体験や経験に基づき講演、意見交換を実施。満足とする回答が92%と目標を上回る結果となった。	・アンケートの結果、外部講師の講演に加え、グループワークの充実など経営計画策定までの過程を評価する意見が多くあったことから、次年度も講座開始前に受講生の意向を把握し、受講生が満足できるようなカリキュラム、講座の充実を努める。	

目標の難易度：◎特に困難 ○通常 △容易に達成

●評価に関するご意見、ご助言等を記入ください。

《項目評価》

【重点目標1に対して】

- ・高校1・2年生を対象とした学校説明など、早期の大学校認知になっていると思う。
- ・ホームページの認知度は目標を大きく下回ったものの、オープンキャンパスや体験研修等、多様な情報発信が入学者の増加につながったと思う。
- ・能登半島地震チャリティ販売会の取り組みは学生の自主的な取組みとして高く評価できる。

【重点目標2に対して】

- ・日本農業技術検定の1級合格を目指した取り組み等、学生の自発的行動は良い傾向である。
- ・2年生の農業技術検定2級取得者は目標より低いが、1年生は十分な成果をあげており、今後の取り組みに期待する。
- ・卒業論文は学んだことを基礎として学生個々の自己表現の成果となるため、今後も大切にしたい。
- ・農家等派遣研修の評価がCと低くなっているため改善が必要と考える。
- ・農家等派遣研修では、問題点としてコミュニケーション不足が指摘されており、自分の意見を発信する訓練なども必要と考える。
- ・農家等派遣研修でのスマートフォンの使い方を考えさせる。

【全体的に】

校内外に対して積極的な取組み・活動を展開されている点は高く評価できると思います。高度な知識と実践教育で培った専門性を有する卒業生が、県内各地で活躍されています。そのご指導・育成にご尽力されている農大の校長先生をはじめ、全職員の皆様に心から敬意を表します。これからも高校生が憧れる学校であり続けてください。

【提案】

卒業時にアンケートを実施し、農大での2年間の学びの内容・成果について聞き、農大の活動の改善につなげてはどうかと考える。